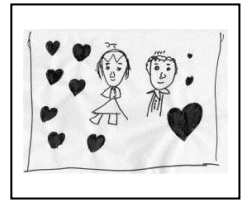




# 学校だより



3月号 県立藤沢養護学校 平成30年3月1日

絵 高等部2年

## 春はもうそこまで

校長 佐藤元治

季節の巡りは本当に早いもので、校門脇の桜の木も、あの息をのむほどの美しさに向けて準備に余念がないようです。皆さんが新たな気持ちで校門をくぐり、桜を見上げた春がついこの前のようですね。

児童生徒の皆さんは一日一日を大切に過ごして、友達や先生と一緒に新しいことにチャレンジしたり、今まで積み上げてきたことにさらに磨きをかけたり、なりたい自分になるためにいろいろ考えながら精一杯取り組みましたね。目標達成できた人もすぐに結果が出なかった人も、がんばれたこと、続けられたことは必ず次へのステップに繋がり、4月からの新たなステージでのキラキラ輝く力になると思います。

今年度も子どもたち一人ひとりの成長を見守り、支えていけるよう職員一同力を合わせて日々努めて参りました。保護者の皆様には、「子どもたちが楽しく学校にかよえるように」「子どもたちの学校生活が充実するように」と日頃からの健康管理や、PTA活動等にお力添えを頂けたこと、心より感謝致します。また、地域の皆様や、学校を取り巻くたくさんの方たちに、子どもたちのため、学校のために多大なご支援とご協力をいただきました。残りひと月、皆様からの励ましやお力添えを子供たち一人一人の育ちにつなげられるよう、基本を大切に進めてまいります。これまでに引き続きこれからも藤沢養護学校を見守っていただけますよう、よろしく願いいたします。

### 小田急ソフトバレーボール教室

小田急財団からオリンピック経験者の方々をお招きし、バレーボール教室を行いました。1時間という短い時間でしたが、パス練習から試合まで共に活動しました。生徒代表と選手4名との対戦を2試合行い、1試合目は選手4名対生徒5名で15点先制され敗北。続く2試合目は、選手4名対生徒+教員（10名程度）で、1点差で勝利を納めました。小田急の方々他校でも親善試合をしていますが、なんと初敗北だそうです。日常ではできない体験と、元オリンピック選手に勝利した思い出深い授業となりました。

## スポーツクラブ報告

高等部スポーツクラブ担当

スポーツクラブは1年生9人、2年生3人、3年生15人の計27人で活動しました。陸上、サッカー、バスケットボールの3種目があり、全てに参加している生徒や、種目を選択して参加している生徒もいます。今年度、陸上は夏の記録会、冬の駅伝大会。サッカーは夏季大会（冬の大会は雪のため中止）。バスケットボールはゆうあいピック、夏季大会、地域交流戦、大学試合観戦、冬季大会にそれぞれ参加しました。練習や試合を通して楽しさや喜びを味わうとともに悔しい思いも経験する中で、技術面だけではなく、精神的にも大きく成長することができました。2年や3年からでも参加することができるので興味があれば声をかけて下さい。

## **卒業に向けて～小学部～**

「憧れの中学生」

小学部6年教員

1年生の頃からの写真を振り返ってみると、6年間で様々な活動を経験しながら、身体も心もぐんぐん大きく成長したのだな、と感じます。行事や日常生活の中で、楽しかったことや悲しかったことも沢山あったことでしょう。よく頑張りましたね。できない時や挫けそうな時には、魔法の言葉「中学生」という言葉で気持ちを切り替えてあきらめずに乗り越えてきました。6年生は、給食を食べ終わった後に他のクラスの片付けも積極的にできる素敵な学年です。これから新しい仲間と一緒に、憧れの中学部で更なる経験をして素敵なお兄さんお姉さんに成長してほしいと願っています。これからも6年生のみんなをずっと応援しています！

## **卒業に向けて～中学部～**

「自分でできることを増やした、仲間と協力した三年間」

中学部3年教員

この学校便りを読まれる頃は卒業式の練習真っ只中ですね。生徒のみなさんと担任達は残りわずかな中学部生活の1日1日を噛みしめながら過ごしています。さて、中学部での3年間はいかがでしたでしょうか。心も体もたくましく大きく成長したと思います。これも保護者のみなさまをはじめ、地域の方々のご理解ご協力のおかげです。本当にありがとうございました。この中学部での3年間は自分でできることを増やしたり、仲間とともに活動する力を育てることを目標に勉強してきました。これらの力は次のステップの高等部につながると思います。みなさんもお体を大事にしてもらい、元気にがんばってください。

## **卒業に向けて～高等部～**

「卒業が意味すること」

高等部3年教員

もうすぐ学生生活が終わり、一人ひとりの選択に基づいた生活が始まります。それは、学校という標準化されたカリキュラムから解放され、自らのニーズに応じて、自分自身でカスタマイズする、より主体的な活動が必要なことを意味します。支援の手厚さも学校のような質的、量的なものは望めない状況があるかもしれません。そのような中、地域社会の構成員の一人として、本人が生き活きと、そしてより豊かに生活するためには、関係諸機関を上手く利用し、つながりを大切にする必要があります。また、本人の自立をどのくらいのスピードで、どのようなステップで進めてゆくのか、計画的に考える必要があります。自立の最終段階（ゴール）と時期を逆算すると、今どのような経験や支援が必要なのかが見えてきます。一人ひとりとは違った道を歩みますが、誰かの支援を受けて自己実現していく力をつけていくことは今後も続く共通の課題です。支援者を増やし、さまざまな支援を選択できる環境をつくっていきましょう。

## **卒業に向けて～鎌倉分教室～**

「卒業に向けて」

分教室3年教員

卒業に向けて卒業文集を作成しました。3年間で振り返って自分が一番書きたいことを選び、自分の気持ちや感謝の言葉など時間をかけて文章を作っていました。振り返っていくとたくさんの思い出がよみがえり、生徒たちも自然と会話が弾んでいきました。自分の気持ちや思いを文章にすることが苦手だった生徒が、一つ一つの言葉をつむぎ合わせて文章にし、素敵な卒業文集が出来上がりました。この学校に来て学んだこと、下級生に伝えたいこと、尊敬する先生ができたこと、生徒たちの文章を読んでいると本当に成長したと感じました。忙しい毎日の中でも生徒たちはたくさんのことを吸収し学びに変え、それを力に変えて発揮してくれました。そして今は自分たちが学んできたことを下級生たちのために残そうとしています。そういった様子が近くで見られることをとても幸せに思います。残り少ない学校生活が楽しく過ごせるように教員一同サポートしていきます。